

令和4年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ提供体制整備事業）

# 「ふれあいスポーツチャレンジ」 事業報告書（3月1日）

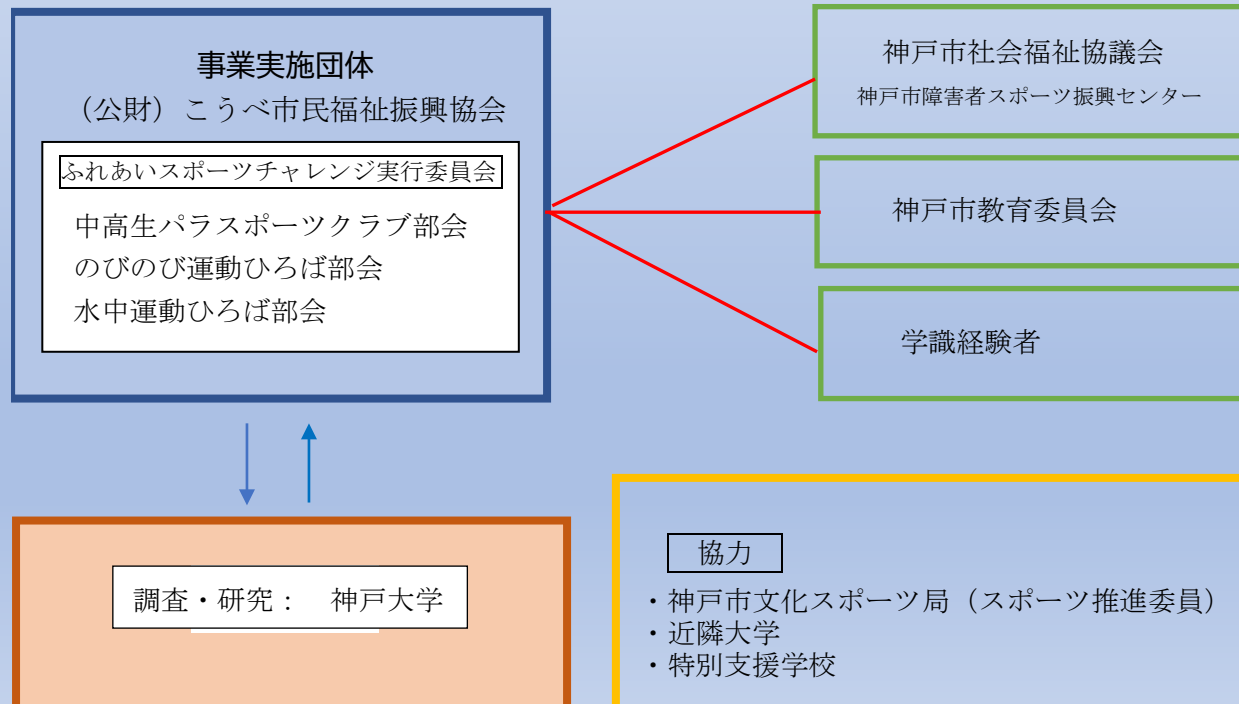
公益財団法人 こうべ市民福祉振興協会

## I. 事業概要①

### 趣旨・目的

しあわせの村開村当初からの福祉に関する法令やサービスの変化に伴い、これからの障害者のスポーツ環境整備に向けて、神戸市教育委員会との覚書を踏まえ、3事業をモデル事業として実施し、調査・研究を行う。当村をプラットフォームとして障害者がスポーツを楽しめる環境の整備を進める。

### 体制



# I. 事業概要②

## 1. 背景

### (1) 神戸市内の特別支援学校 中学・高等部に在籍する生徒のスポーツ環境

- 市内にある特別支援学校10校に対しアンケート調査を実施。
- 在籍する生徒の6割が運動部活動を経験できている。(概ね全国平均と同等)
- 実施している学校での頻度は月1回、週2～3回など様々。学校ごとにスポーツの機会は異なる。
- 部活動実施種目は、卓球や陸上競技など個人種目が多い。

### (2) 神戸総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加状況

- スポーツ推進員が所属する神戸市内の総合型地域スポーツクラブに対しアンケートを実施。
- 約87%のスポーツクラブでは障がい者の参加がない。
- 受け入れができていない理由としては、設備がない、指導者が整っていないの回答。

## 2. スポーツ指導にあたっての工夫と配慮

- 各事業・種目でスポーツ指導にあたったスタッフへヒアリング(シート)を実施。
- 目標設定を(絵に書いて掲示するなど)目に見えるようにする、スモールステップでの指導や生徒に合わせる指導をするなどいくつかの工夫が必要であった。

## 3. 調査のまとめ

- 本事業対象児は、体力テストで全国平均を下まわり、運動をする機会が少ないことがわかった。
- 体力・運動テストは、一部の項目で向上を示し、スキルにおいても一部の項目で変容を認めた。
- 精神面や行動面は有意な変容は見られなかったが、参加者および保護者は事業には満足していた。

## II. 中高生パラスポーツクラブ

### 概要

- 対象者：神戸市内等の支援学校（中学・高等部）に在籍する生徒
- 日程等：令和4年9月～5年1月 平日／放課後（専用バスで学校・拠点⇄会場を送迎）
- 種目：テニス、バドミントン、陸上、ダンスから希望する1種目を選択
- 参加校：①青陽須磨支援学校 ②いぶき明生支援学校 ③灘さくら・青陽灘高等支援学校  
④県立神戸特別支援学校 ⑤友生支援学校 ⑥神戸大学附属特別支援学校
- 実施回数：1校あたり全5回（計30回実施）
- 参加人数：66人(実参加数)



### 調査

#### (1) 体力測定・質問紙による調査

各期の初回・最終回に実施し、運動前後の効果を測る

項目	目的
身体測定（身長、体重、BMI、骨格筋量）	体格・骨格筋量
* 握力	筋力
* 立ち幅跳び	跳躍力、瞬発力
* 長座体前屈	柔軟性
* 上体起こし	筋持久力
6分間歩行試験	持久力、体力
肺機能検査（肺活量）	呼吸機能
青少年健康行動質問票（HBSC-J）	身体活動量
* は文部科学省 新体力テスト実施項目	



- 参加者の測定結果は全般的に全国平均を下回っている。
- 12～15歳（中学生相当）に比べて16～18歳（高校生相当）は全国平均との差が大きくなっている。



**(2) 保護者調査 (WHO-5、SDQ、KIDSCREEN)** 運動プログラム実施前後で下記項目を評価する

- ①子どもの情緒面・行動面、健康関連QOLの変化
- ②保護者の精神的健康の変化

**(3) 神戸大学附属特別支援学校の質的調査** 神戸大学附属特別支援学校の参加生徒、保護者、教員の記録

**(4) 参加者による形成的評価** 参加した生徒に毎回プログラム終了後に7項目のアンケート調査を実施

- ・保護者調査 (WHO-5、SDQ、KIDSCREEN) では有意な変容は見られなかった。
- ・形成的評価では、目標が明らかで達成感を得られるような種目の評価が高かった。
- ・「協力する姿勢」「学び方」「意欲」は、回を重ねるごとに有意な改善がみられた。

### 保護者アンケート

今回のプログラムに参加して、お子さまは楽しまれていましたか			
回答	とても楽しんでいた	楽しんでいた	あまり楽しんでいなかった
%	75%	23%	2%

ご家族 (保護者様=ご回答者) にとって満足いただけましたか				
回答	とても満足している	満足している	あまり満足していない	満足していない
%	73%	23%	2%	2%



- ・学校の昼休みに先生や友達を誘い、バドミントンをしているようだ。
- ・家でもダンスをするようになった。習いたいと言っている。
- ・外出時に歩くスピードが格段に上がった。
- ・毎回「楽しかった」と帰宅、次回を楽しみにしていた。
- ・同級生と同じ時間を共有できることが楽しかったようだ。
- ・体を動かすことがストレス発散になっているようで癩癩が減った。
- ・リフレッシュできるからか、帰宅後の表情や会話のトーンが明るい。



# Ⅲ. 水中運動ひろば

## 概要

- 対象者：神戸市内の特別支援学級の小学3～6年生の児童
- 日程等：令和4年7月～9月（前期）10月～11月（後期） 日曜午前
- プログラム：水中サーキット・水中ダンス・水遊びなど（保護者も入水）
- 実施回数：のべ40回（2期×2クラス×各5回）
- 参加人数：計39人（応募者数62人）



## 調査

### 1. 体力測定（項目は右図）

各クラス初回・最終回に実施

上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈の平均値が上昇した。

項目	目的
身体測定 (身長、体重、BMI、骨格筋量)	体格・骨格筋量
* 握力	筋力
* 立ち幅跳び	跳躍力、瞬発力
* 長座体前屈	柔軟性
* 上体起こし	筋持久力
片足立位	バランス力
ケンケン	バランス力
* は文部科学省 新体力テスト実施項目	



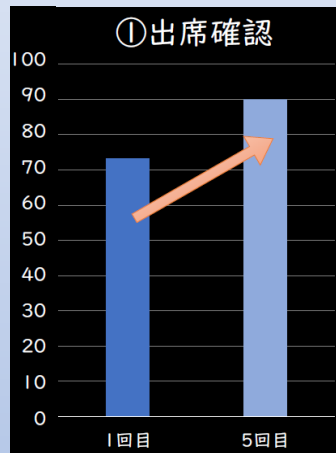
## 2. 保護者調査 (WHO-5、SDQ、KIDSCREEN)

各クラス初回・最終回に実施 有意な変容は見られなかった。

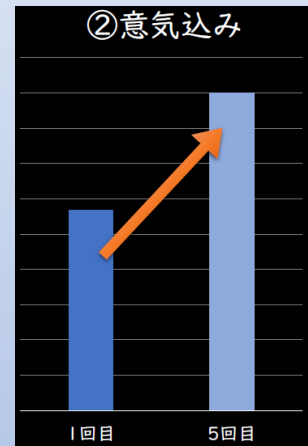
## 3. 行動観察による調査

毎回調査員が行動観察を実施

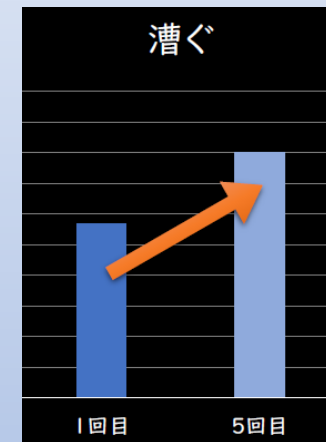
プログラム中の項目ごとに達成率を初回と最終回で比較すると以下の項目で変容が見られた。



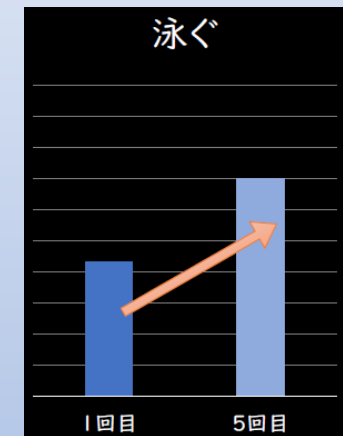
出欠確認で返事ができた参加児童



自発的に掛け声と言えた参加児童



大きな浮き島を他の参加児童と漕げた参加児童



泳ぐことができた参加児童

### 保護者アンケート

内容に満足できた	参加したお子様が楽しそうだった	参加したお子様の水中運動への自信がついた
100%	97%	95%

※アンケートはいずれも各質問項目、上位2つの人数割合を合算

- ・ 親子で、体を動かして参加させていただいて楽しく過ごせました。
- ・ 気になる点を質問したら答えて下さったり、水中運動中のサポートの仕方を教えてもらったのが良かったです。
- ・ 楽しかったです。息つき、バタ足が上手になりました。
- ・ 水に慣れることができて、5回でもとても良かったです。プログラムがしっかりしていたので子どもも飽きずに楽しめました。



## IV. のびのび運動ひろば

### 概要

- 対象者 : 神戸市内の小学校に通う発達の良い気になる1・2年生の児童とその保護者
- 日程等 : 令和4年7月～9月（前期）10月～12月（後期） 土曜午後
- 児童プログラム：サーキット・運動遊びなど（ボランティアがマンツーマンで支援）
- 保護者プログラム：専門家による講演とワークショップ、親子運動プログラム
- 実施回数：のべ40回（2期×2クラス×各5回）
- 参加人数：計60組（応募者数138組）
- ボランティア：神戸市近隣の大学の大学生等のべ178人



### 調査

#### 1. 体力測定（項目は右図）

各クラス初回・最終回に実施

- 「片足立ち」の保持時間が開眼・閉眼ともに有意に伸びた。（バランス機能の向上）
- 1年生の「握力」が有意に増加した。

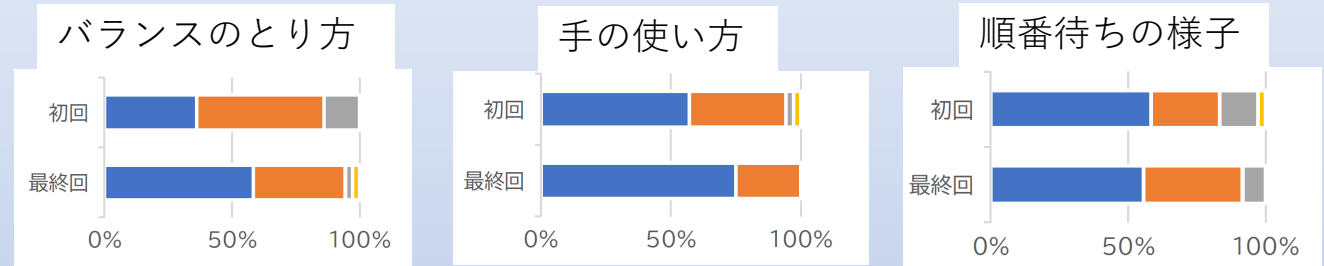
項目	目的
身体測定 (身長、体重、BMI、骨格筋量)	体格・骨格筋量
* 握力	筋力
* 立ち幅跳び	跳躍力、瞬発力
* 長座体前屈	柔軟性
片足立位、ケンケン	バランス力
線引き	
運動有能感	
* は文部科学省 新体力テスト実施項目	

## 2. 保護者調査（WHO-5、SDQ、KIDSCREEN）

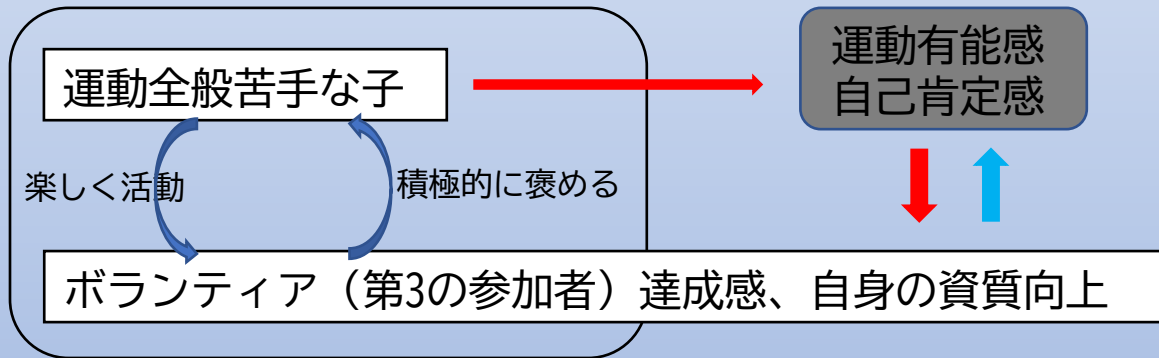
各クラス初回・最終回に実施 有意な変容は見られなかった。

## 3. 行動観察による調査 毎回ボランティアが行動観察を実施

「バランス」「手の使い方」「順番待ち」等の項目について、初回に比べ「気になる」「やや気になる」と感じる子どもの割合が減った。



## 4. ボランティアの意識調査



参加してよかった	活動に満足	発達障害への関心が高まった
100%	100%	100%

※インクルーシブ社会の実現に寄与する人材育成のよい機会

## 保護者アンケート

参加して総合的に満足	家でも実践した	子育ての悩みが軽減した
86%	50%	82%

※アンケートはいずれも各質問項目、上位2つの人数割合を合算

- ・子どもの成長をサポートしてくださる方がこんなにたくさんいるとわかりありがたかった。
- ・同じような悩みを持つ親と語り合い、思いを共有できてよかった。とても貴重な時間だった。



本報告書は、スポーツ庁の委託事業として（公財）こうべ市民福祉振興協会が実施した令和4年度障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ提供体制整備事業）の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

（公財）こうべ市民福祉振興協会 運営振興課 佃・石田  
電話（078）743-8017